

# 5 静岡県第4次地震被害想定結果



## 5-1 静岡県第4次地震被害想定結果(御前崎市のみ抜粋)

#### 1 想定結果の概要

(1) 建物等被害に係る想定結果

【地震動:基本ケース、津波:ケース①】

(単位:棟)

項目	被害区分		予知なし		予知あり
<b>以</b> 日		冬・深夜	夏・昼	冬・夕	17年のり
地震動	全壊		約2,000		約2,000
地展期	半壊	約2,600	約2,600	約2,600	約2,600
液状化	全壊		_		_
1121/16	半壊	約20	約20	約20	約20
人工造成地	全壊		約80		約80
八工坦风地	半壊	約200	約200	約200	約200
津波	全壊		約700		約700
<b></b>	半壊	約300	約300	約300	約300
山・崖崩れ	全壊	約20			約20
四・産朋40	半壊	約50	約50	約50	約50
火災	焼失	約10	約10	約90	_
建物棟数	建物棟数		16, 648		
Z=+ Hm >tr /=: 4//> 米hr	全壊及び焼失	約2,800	約2,800	約2,900	約2,800
建物被害総数	半壊	約3,200	約3,200	約3,200	約3,200
建物被害率	全壊及び焼失	約17%	約17%	約17%	約17%
建物似古竿	半壊	約19%	約19%	約19%	約19%

ブロック塀等転倒数	約100件
屋外落下物が発生する建物数	約400棟

<sup>「-」:</sup>被害わずか

(注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

2 全壊:災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊 3 半壊:災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊 【地震動:陸側ケース、津波:ケース①】

(単位:棟)

1名日	地宝区八		予知なし				
項目	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	予知あり		
地震動	全壊		約800		約800		
地展期	半壊	約1,900	約1,900	約1,900	約1,900		
液状化	全壊		_		_		
11×1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/	半壊	約20	約20	約20	約20		
人工造成地	全壊		約40		約40		
八上坦风地	半壊	約100	約100	約100	約100		
津波	全壊	約700			約700		
<b>年</b> 仮	半壊	約400	約400	約400	約400		
山・崖崩れ	全壊	約20			約20		
四・産朋46	半壊	約50	約50	約50	約50		
火災	焼失		_	約10	_		
建物棟数	建物棟数		16, 648				
建物被害総数	全壊及び焼失	約1,600	約1,600	約1,600	約1,600		
■ 建物	半壊	約2,500	約2,500	約2,500	約2,500		
建物被害率	全壊及び焼失	約10%	約10%	約10%	約10%		
建物饭舌竿 	半壊	約15%	約15%	約15%	約15%		

ブロック塀等転倒数	約90件
屋外落下物が発生する建物数	約90棟

「一」: 被害わずか

(注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

2 全壊:災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊 3 半壊:災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊 【地震動:東側ケース、津波:ケース①】

(単位:棟)

項目	地宝区八		予知あり			
	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	J^大H めり	
地電部	全壊		約6,000		約6,000	
地震動	半壊	約2,700	約2,700	約2,700	約2,800	
液状化	全壊		_		_	
1121/16	半壊	約20	約20	約20	約20	
人工造成地	全壊		約200		約200	
八上坦风地	半壊	約700	約700	約700	約700	
津波	全壊	約500		約500		
<b>净</b> 仅	半壊	約200	約200	約200	約200	
山・崖崩れ	全壊	約30		約30		
田・産朋40	半壊	約70	約70	約70	約70	
火災	焼失	約70	約100	約300	約10	
建物棟数	建物棟数		16, 648			
Z	全壊及び焼失	約6,900	約6,900	約7,100	約6,800	
建物被害総数	半壊	約3,700	約3,700	約3,700	約3,700	
建物地生态	全壊及び焼失	約41%	約41%	約43%	約41%	
建物被害率	半壊	約22%	約22%	約22%	約22%	

ブロック塀等転倒数	約300件
屋外落下物が発生する建物数	約2,400棟

### 「-」:被害わずか

(注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。

2 全壊: 災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく全壊 3 半壊: 災害の被害認定統一基準による自治体判定基準に基づく半壊

#### (2) 人的被害に係る想定結果

【地震動:基本ケース、津波:ケース①】

(単位:人)

		被害区分		予知なし		予知あり		
	供日	依舌凸分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
		死者数	約50	約30	約40	約20	約10	約10
建物	物倒壊	外 有 毅	(約10)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
( ?	うち屋内収容物	重傷者数	約200	約500	約200	約60	約100	約70
移重	め・転倒、屋内	里場有剱	(約20)	(約10)	(約10)	(-)	(-)	(-)
落了	「物)	故/年老米	約700	約700	約600	約200	約200	約200
		軽傷者数	(約70)	(約60)	(約50)	(約20)	(約10)	(約10)
	日生活等等本	死者数	約500	約800	約600	約100	約200	約200
	早期避難率高 + 呼びかけ	重傷者数	_	_	_	_	_	_
津	十呼いがり	軽傷者数	約10	_	_	約10	約10	約10
波		死者数	約1,000	約1,900	約1,400	約100	約200	約200
	早期避難率低	重傷者数	約40	約30	約30	_	_	_
		軽傷者数	約70	約50	約60	約10	約10	約10
		死者数	_	_	_	_	_	_
山.	・崖崩れ	重傷者数	_	_	_	_	_	_
		軽傷者数	_	_	_	_	_	_
		死者数	_	_	_	_	_	_
火災	<u> </u>	重傷者数	_		_	_	_	_
		軽傷者数	_		_	_	_	_
ブト	ュック塀の	死者数	_		_	_	_	_
	リ、屋外落下物	重傷者数	_		_	_	_	_
料公は	1、座外格下物	軽傷者数	_		_	_	_	_
死	早期避難率高	死者数	約600	約900	約600	約100	約200	約200
	早期避難学問   十呼びかけ	重傷者数	約200	約500	約300	約60	約200	約80
傷者	一中のかり	軽傷者数	約700	約700	約600	約200	約200	約200
数		死者数	約1,100	約2,000	約1,400	約100	約200	約200
合計	早期避難率低	重傷者数	約200	約500	約300	約60	約200	約80
рΙ		軽傷者数	約700	約800	約600	約200	約200	約200
自力	7脱出困難者	地震動	約200	約200	約200	約70	約60	約60
	要救助者数	津波	約80	約600	約300	約10	約70	約30
_	. 加生もぜん	1	1		1	·		

「-」:被害わずか

- (注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
  - 2 倒壊:建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井(1999)による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
  - 3 重傷者:1ヶ月以上の治療を要する負傷者
  - 4 軽傷者:1ヶ月未満の治療を要する負傷者
- (※) 夏・昼発災 (予知なし) の場合、海水浴客の津波による死者数の増分は、約100人 (早期避難率高+呼びかけ) ~約300人 (早期避難率低)
- (※) 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

【地震動:陸側ケース、津波:ケース①】

(単位:人)

項目     被害区分     冬・深夜     夏・昼     冬・深夜     夏・       冬・深夜     夏・昼     冬・深夜     夏・       終10     約10     約10     一       (一)     (一)     (一)     (一)       建物倒壊     約90     約200     約100     約20     終       (うち屋内収容物     重傷者数     (約     (約     (約     (一)     (一)	- (-)
水首数     (-)<	
(一)     (一)<	
(うち屋内収交物   重復老粉   (約 (約 (約 )	160
(うち屋内収容物   重傷者数   (約   (約   (約   / 、   /	約30
	-) (-)
移動・転倒、屋内   10)   10)   10)	
落下物)   約400   約400   約300   約100   約1	.00 約100
軽傷者数   (約   (約   (約	(約 (約
	.0) 10)
早期避難率高	200 約200
+ 啐バかは   里傷有数	_
津	10 約10
波 死者数 約1,000 約1,900 約1,400 約100 約2	200 約200
早期避難率低 重傷者数 約40 約30 約30	_
	10 約10
死者数	_
山・崖崩れ     重傷者数     -     -     -     -	_
軽傷者数	_
死者数   -   -   -   -	_
火災         重傷者数         -         -         -         -         -	_
軽傷者数	_
	_
1	_
	_
死     早期避難率高     死者数     約600     約800     約600     約100     約2	200 約200
死   早期避難率高   重傷者数   約90   約200   約100   約30   糸	60 約30
傷者 者+呼びかけ重傷者数約90約200約100約30約整傷者数約400約400約300約100約1数死者数約1,000約1,900約1,400約100約2	.00 約100
数 死者数 約1,000 約1,900 約1,400 約100 約2	200 約200
合 計 早期避難率低 重傷者数 約100 約200 約100 約30 約30 約30	60 約30
軽傷者数 約500 約400 約400 約100 約1	.00 約100
自力脱出困難者 地震動 約60 約50 約50 約20 約	10 約10
	70 約30

「一」: 被害わずか

- (注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
  - 2 倒壊:建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井(1999)による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
  - 3 重傷者:1ヶ月以上の治療を要する負傷者
  - 4 軽傷者:1ヶ月未満の治療を要する負傷者
- (※) 夏・昼発災 (予知なし) の場合、海水浴客の津波による死者数の増分は、約100人 (早期避難率高+呼びかけ) ~約300人 (早期避難率低)
- (※) 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

【地震動:東側ケース、津波:ケース①】

(単位:人)

1百日 5		***		予知なし		予知あり		
	項目	被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
			約200	約100	約200	約70	約30	約50
		死者数	(約	(約	(約	(-)	(-)	(-)
Z <del>-1-</del> /l-/	<b>加</b> 倒壊		20)	10)	10)	(-)	(-)	(-)
	が囲場 うち屋内収容物		約600	約1,200	約700	約200	約300	約200
	から屋内収容物が、転倒、屋内	重傷者数	(約	(約	(約	(約	(約	(約
	「物)		60)	50)	40)	10)	10)	10)
170 1	1/27		約1,100	約1,500	約1,000	約300	約400	約300
		軽傷者数	(約	(約	(約	(約	(約	(約
			200)	200)	200)	50)	40)	40)
	早期避難率高	死者数	約600	約900	約600	約100	約200	約200
	十呼びかけ	重傷者数	_	_	_			_
津	1 1 0 2 1	軽傷者数	約10	_	_	約10	約10	約10
波		死者数	約1,000	約2,000	約1,400	約100	約200	約200
	早期避難率低	重傷者数	約40	約30	約30			
		軽傷者数	約70	約50	約60	約10	約10	約10
		死者数	_	_	_			
山.	崖崩れ	重傷者数	_	_	_	_	_	_
		軽傷者数	_	_	_	_	_	_
		死者数	約10	_	約20	_	_	_
火災	ζ.	重傷者数	_	_	_	_	_	_
		軽傷者数	_	_	約10	_	_	_
ブェ	ュック塀の	死者数	_	_	_	_	_	_
	リ、屋外落下物	重傷者数	_	_	_	_	_	_
744		軽傷者数	_	_	_	_	_	_
死	早期避難率高	死者数	約800	約1,000	約800	約200	約300	約200
傷	+ 呼びかけ	重傷者数	約600	約1,200	約700	約200	約300	約200
傷者数	HT ().//4()	軽傷者数	約1,100	約1,500	約1,000	約300	約400	約300
数		死者数	約1,300	約2,100	約1,600	約200	約300	約200
合計	早期避難率低	重傷者数	約700	約1,200	約700	約200	約300	約200
ΡI		軽傷者数	約1,200	約1,500	約1,100	約300	約400	約300
自力	7脱出困難者	地震動	約1,000	約900	約900	約300	約300	約300
数•	要救助者数	津波	約80	約600	約300	約10	約70	約30

#### 「-」:被害わずか

- (注) 1 端数処理のため合計値が各数値の和に一致しない場合がある。
  - 2 倒壊:建物が構造的に倒壊・崩壊した状態を指し、岡田・高井(1999)による建物破壊パターンチャートのD5以上相当。全壊に含まれる。
  - 3 重傷者:1ヶ月以上の治療を要する負傷者
  - 4 軽傷者:1ヶ月未満の治療を要する負傷者
- (※) 夏・昼発災 (予知なし) の場合、海水浴客の津波による死者数の増分は、約100人 (早期避難率高+呼びかけ) ~約300人 (早期避難率低)
- (※) 予知あり時における発災時の津波からの避難行動は、早期避難率低と同じとした。

#### (3)津波の高さ

(単位: T.P.+m)

ケース①		ケース⑥		ケース⑧		左のうち最大		
最	:大	平均	最大	平均	最大	平均	最大	平均
1	[9	12	19	12	19	12	19	12

#### (4)津波の最短到達時間

(単位:分 四捨五入)

			最 短 到	達時間		
	+50cm	+1m	+3m	+5m	+10m	最大津波
ケース①	4	4	7	11	12	20
ケース⑥	4	4	7	11	12	20
ケース⑧	5	6	9	12	20	21

#### (5)地盤変位

港湾·漁港名	施設名	水深(m)	延長 (m)	地盤変位 (m)	変位後水深(m)
	西埠頭3号岸 壁	-7.5	130	2. 0	-5.5
御前崎港	西埠頭 4 号岸 壁	-7.5	130	2. 0	-5.5
	西埠頭 10 号 岸壁	-14.0	280	2.0	-12.0

#### (6)上水道断水率

管路延長	被害箇所数	被害率	断水率 (%)							
(km)	(件)	(件/km)	直後	1日後	7日後	1 か月後				
約 400	約 2,600	5.83	100	99	81	45				

#### (7)下水道機能支障人口

<b>処理人口</b>		機能支	障率 (%	)	機能支障人口(人)				
处理人口	直後	1日後	7日後	1か月後	直後	1日後	7日後	1か月後	
約 14,000	81	96	72	17	約 11,000	約 13,000	約 9,800	約 2,300	

### (8)停電件数・停電率

<b>電西字</b> 粉	直後		1 日彳	<b></b>	4 日 1	後	1週間後		
需要家数	停電軒数	停電率	停電軒数	停電率	停電軒数	停電率	停電軒数	停電率	
約 21,000	約 18,000	89%	約 17,000	81%	約 1,800	9%	約 1,500	7%	

#### (9)固定電話の不通回線数

	直後	ź	1 日 1	後	4 日 1	後	1週間後	
回線数	不通回線	不通回	不通回線	不通	不通回線	不通	不通回線	不通
	数	線率	数	回線率	数	回線率	数	回線率
約 9,600	約 8,700	91%	約 8,100	84%	約 1,800	19%	約 1,100	12%

#### (10)携帯電話の被害数

直後	Ź	1 日 1	发	4 日 1	後	1 週間	後
停波	不通	停波	不通	停波	不通	停波	不通
基地局率	ランク	基地局率	ランク	基地局率	ランク	基地局率	ランク
14%	-	84%	A	21%	-	19	_

#### (11)LP ガス供給停止需要家数

需要家数	要点検需要家数	機能支障率
約 11,000 戸	約 7, 100 戸	65%

#### (12)避難者

	1日後			1週間後		1 か月後			
避難者			避難者			避難者			
数数	避難所	避難所 外	数数	避難所	避難所 外	数数	避難所	避難所 外	
17, 368	10, 582	6, 786	19, 785	10, 445	9, 340	23, 260	6, 978	16, 282	

#### (13)医療対応不足数

対応可能	要転院	転院 重傷者数 対応可能 転		軽症者数	医療対応力不足数			
入院患者数	患者数	+病院死者数	外来患者数	<b>鞋</b> 址有	入院対応	外来対応		
約 20	約 50	約 1,400	約 60	約 1,500	約 1,400	約 1,500		

#### (14)医師一人当たり診療すべき患者数

医療施設	<b>设事医師数</b>	医療需	· 等要	医師一人当たり診療すべき患者数			
外科系	外科系以外	重傷者+病院死者	軽傷者数	外科系	外科系以外		
7	24	約 1,400	約 1,500	202	63		

#### (15)救急搬送充足率

救急自動車数 (H24.4.1)	搬送需要者数 (重傷者+病院死者)	救急搬送充足率
5	約 1,400	6%

#### (16)住的機能支障

発災後約1か月~約2年における中期的住機能支障(世帯)

		中期的	白住機能	主支障	(世帯)	[避難	先別ある	いは住	E宅再建	*方法別	]]		
理し居住	自宅新築	自力仮設 従前場所で	新築・購入別の場所に	親族、知人宅	する施設 勤務先の提供	民間賃貸	借上げ型応急	応急仮設住宅	一時使用公営住宅	避難所	その他	合計	住機能支障なし
1,643	1, 283	406	197	843	284	438	1,023	726	431	149	106	7, 530	3, 949

## 発災後約2年~数年以降における長期的住機能支障

	Ħ	期的住機	能支障	(世帯) [	避難先別	あるいはイ	主宅再建	方法別]			
						公営	住宅				住
補修し居住	自宅新築	新築・購入	民間賃貸	親族、知人宅		全壊	うち 年収 400 万円 未満	半壊	その他	仁計	機能支障なし
1,520	2, 113	543	1, 317	506	1, 399	1, 135	682	264	131	7,530	3, 949

#### (17)災害廃棄物等発生量

災害廃	棄物等発生量(=	チトン)	災害廃棄物等発生量 (千㎡)				
災害廃棄物	災害廃棄物 津波堆積物		災害廃棄物	津波堆積物	計		
777	269~571	1,046~1,348	704	244~391	948~1,095		

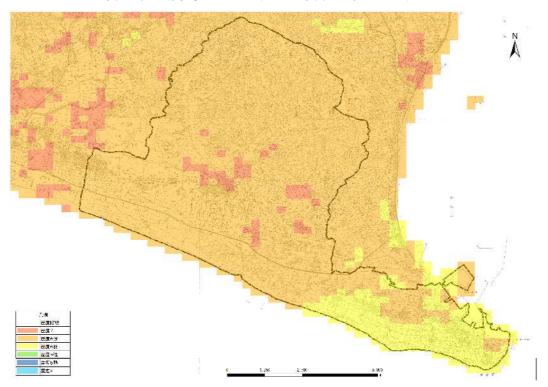
### (18)1日当たりの観光・出張客数

観光目的				ビジネス目的						
<b></b>	県内 県外		小計	県内		県外		小計	合計	
宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	/1,旦1	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り	八,旦	
94	563	367	1,090	2, 115	44	2	149	101	296	2, 411

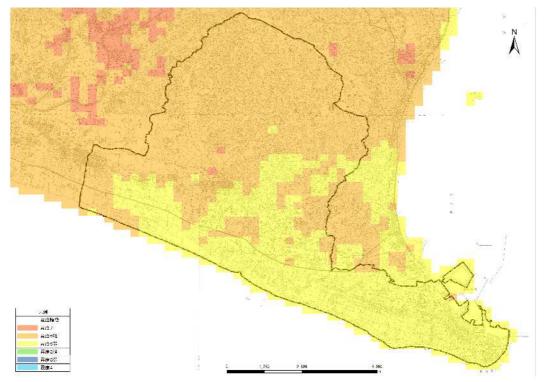
#### 2 推定震度分布図

この分布図は、静岡県第4次地震被害想定結果による。

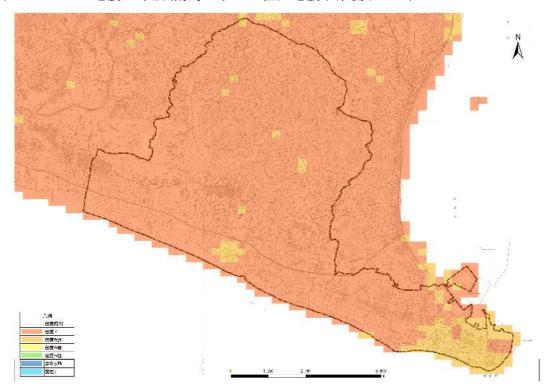
(1) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震;基本ケース)



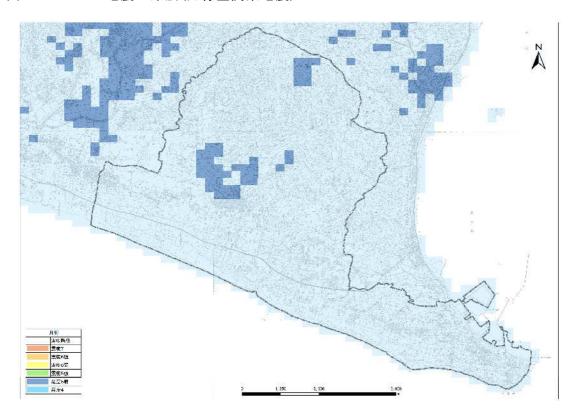
#### (2) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震;陸側ケース)



## (3) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震; 東側ケース)



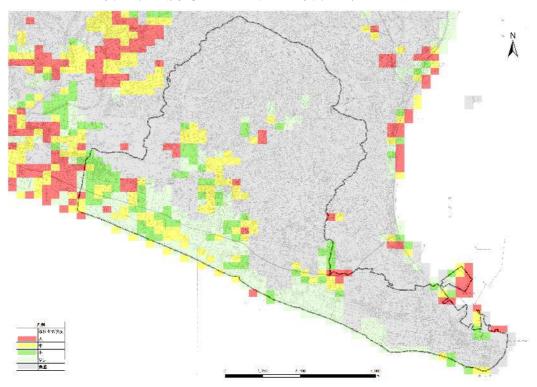
## (4) レベル2の地震・津波(元禄型関東地震)



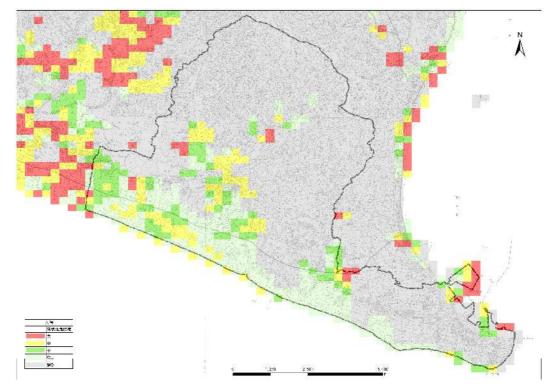
#### 3 推定液状化危険度

この分布図は、静岡県第4次地震被害想定結果による。

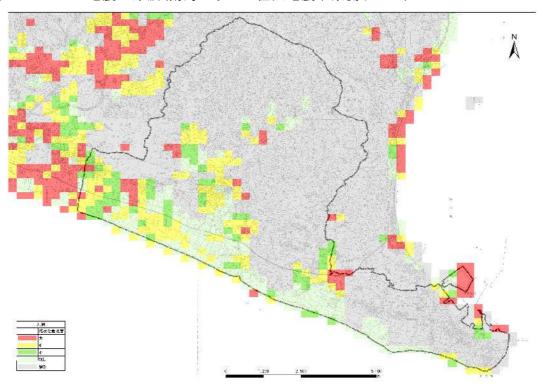
(1) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震;基本ケース)



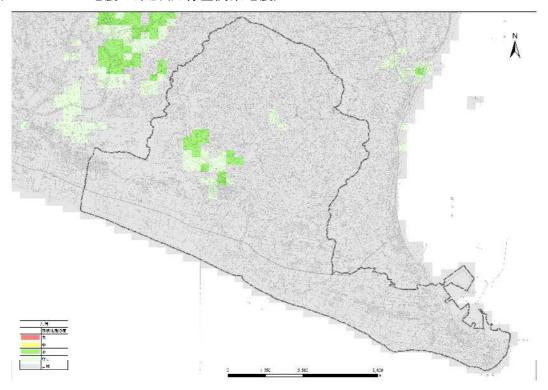
#### (2) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震;陸側ケース)



## (3) レベル2の地震・津波(南海トラフの巨大地震;東側ケース)



### (4) レベル2の地震・津波(元禄型関東地震)



\*本文中の丸ゴシック体が会生・社会性数の変化物以作の進化、南軍トラフレ大地幕等を確定した変素が固定を災害を設定に移動した結果、第3次也需要書籍を持ちり見たい企脈した言葉 \*本文中のゴシック体・大手・下線部分: 東日本大震災を受けて特に注目が高まっている事項 第二次事件でのも収集が

#### 駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震の被害状況のイメージと対応(全体像)

#### (1)全体シナリオ概要

区 分	地震発生	1日後	2、3日後	1 週間後	1ヶ月後	半年、1年後~
	堤防等が沈下、破壊され、広範囲 に津波浸水	多数の死者・行方不明者の捜索(捜索部隊の 不足、道路閉塞・渋帯、火災・延焼、地線沈下に よる湛水等により捜索が機能)	複索・輸送信息等に必要な電力・燃料の調整困難、対応 速の可能化	の定義は対し対象主の対象による定義が創口活動の位置	低地部では、海水が引かない可 能性もあり、市街地の再建に関す	災害廃棄物、津波堆積物の除去 処理の長期化
	津波浸水による建築物板害、単設 滞等津波からの逃げ遅れによる		物質の確保や医療機道等に必要な主要道路の整開 の消費、ヘルプター維発普流地の不足	向謝線・派団職員の拠点や、物資集技器所、が れき反置場等のためのまとまった空地等が不足	る具体的な検討が困難 液状化被害(宅地の)地盤	変状)等により、避難生活が長期化
	死傷発生 地盤の隆起・沈下、断層のずれ	津波による港水やがれきの堆積で移動できず 津波西難ビル等に選集している住民の孤立が 多数発生	応信(京治学等的に対する建筑事項のX締日: 建基法8 5条	津波旅災地や密集市街地における建築制限 : 建		→ 都市計画決定
	(段差)の発生			津波被災地や土砂災害危険地域における建築制限	: 建基法39条 	
	冲波/2第1波上/2第2波以降が最大		の孤立集落の救出活動が長期化			
	波の場合、自宅に戻り、死傷者が 拡大	停電やシステム障害により金融機関等における為替取引、交通管制システム(交差点等)の 混乱等	被災地での生産活動が停止し、全国的な物質の供給 量不足及び被災地外のサプライチェーンにおける経 済活動の停止	公共交通機関や小売店等の生活機能支降が回復 せず、自宅等に戻った住民も生活が困難	気機者が大量に発生	被災地での生活が経済面、環境 で改善されす人口減少
	強い付けいことりを行木と家屋等が 多数印度	区療物度への総送本格化、表示が必要となる 急者数の地大、一方で、区裁論は「4の機災	(《伊芸丽紫の美天社、荒観》徐々に不得ら	在宅医療・福祉の困難化	直接機災の成分難、生活書等によるうつ	2、震災勢事外が増加
	高層ビル上端を中心に帰内転倒 物・落下線とより死傷。エレベータ 一内の間に込め発生	ラインライン機治支電ご任治水瀬農作の代下、 医放松す者や医薬品の不足等で対し力の不足	応援部隊の増加とともに、多数の遺材が収容され、 収容場がおよび推等の确保が必要	(ワイフライ:か帰々に図頭山)	地域主民との開整や、インフラ(灯炉 定等との整合を重視した紀果、復興の第 等の不安が増大	の必能を等)の復日子 基本方針が対すらず住民
被害忧况	木造作字溶集順載 工業即域で出め	、初期治火に失敗した殺火がが半週類拡大	広域に被災した場合、復日のための人族・管機材数が 不足するために、ライフライン・インフラの収復日が遅 延	ライフラインの仮復旧や当祭啓頭"公公中"、遊覧所 から自宅、知人宅等へ近難名が移動に状況把握が 取解	被災地における倒産等が多数発 生し、生産力の回復が困難	被災地の復興の停滞(人口波) 域の荒廃、集落の消滅・廃村
	発電所・変電所、浄水場、通信施 設、下水処理調等が模災し存止	遊覧所への遊覧者が勢点、透覧所に入りきらす 中部機合や配外 (テント) 遊雑も多数発生。一方で、在宅選貸者も膨大	「仮説主宅等の応急住宅の必要戸数、り災害用のため の調査に係るマンパフーが不足	連絡が開催さ者級が成りせず、支援者数も不足し、 体調を終す人や生活不活発をの増加、苦岸等こよ		
	道路橋、高梁橋等の抗康等で道路 団児	直接疾患および電力・激料不足によりラインライン	<b>ジバ停止が継続</b>		広域困難した多数の住民の行先等の情	<b>発把握が強約</b> 。
	光芒生染物の到象。斜面附表,火 災、污渍公工上心道路開金僅5万分 多次発生	高い道路や海洋線・池谷牛の交通インノラの変 災・渋滞等による機能低下の状況隊や物資の		広場に被災した場合。ライフライン・インフラの   復日に必要な管材(西線や筋筋・鉄骨、コンクリ		
		転送率回等による技災地間辺へのアクセスが  対策	要編纂者や有販者等を受入れが可能を必逆・民間生産の全営住宅は、ホテル・旅館等が十分に留果できない、「	ート等)の生産が門こ合わず、資材不足により復	じ急病が1分の急約11時が不足 ((位	治理技術を対象をに完整
	工場や準得等、生産・物流図車の 生業が多数停止	応援部隊の受入れ、救助・搜索活動(仮配や 他の応援機関等と多くの調整を要すると予 組)	出定課業所の外を含む多数の推動所が設置され、準 期高級の相似。確定所の与活制節間は、物質・一×( (42页 必要量の2型量が4数		[一位《完善设作》学(4) 59 7美6 月8 月8 月8 日	
	被害の人会。東東泰北と情報集約が 国際社会が社会的混乱発生	(製物以間外の発災の場合)参集できない機員 等からろために初動対応に必要なマンパワー が不足		遊響性活の支援出こ作と、ニーズの多種化に対応 する必要性(食料と注心にはなりませた。変更等)	[ (新城市) 海鸦市(44、学校教育を平成)	
	駅ターミナルで最乱発生	大きな発言や中世紀に第による二次災害が発生	して、被害が拡大し、防治病院が痛が、支障			
	観光客等の帰宅末曜者の発生	治安の悪化(住民や企業等が選進した地域等)	は、空気栄養の発生)		大量の10%信囲(等の発行)手続き、穀援 金や生活支援命の調査等の事務作業	
	THE RESERVE CONTRACTOR OF THE PARTY OF THE P	外国人の安否情報について、自治体の国際契例 等からの確認な類が殺到	2007年で地域国際交流協会に各国大使館、在外の個人			

\* 本文中の丸ゴシック体的分。 社会情勢の変化や技術の進化、病準トラフ戸人物養育を認定した程度、薬的な痕質等を前提に求耐した程果、第3次地養養害想定時より所たに足加した手項 \*本文中のゴシック体・太子・下輪部分: 東日本大震災を受けて特に注目が高まっている事項

区分	地震発生	1日後		1 週間後	1ヶ月後	半年、1年後~
	・災害対抗水消費層、活動用給 ・集から中川に重楽品派遣 ・キ、開発報酬等以内有被気空	・市町5万支の定設要請案に対応 ・見が3月両へ5万松原具を続告	・ご告めた時においまかり乏人と		市の前庁等のアクノリラを特・利用売のお古調や?	
県災害対策本部のシナノオ		・共内の化学等方が、の交換が調査等整 今の交入れ分析を確認 1UBAN 学による被音情報が中域、情報が失	・シインシン・生業的と何、調整 官門第二の前他では今受入れ	,外後	が大约旧・復興計画の機が	
	・松戸状パタ神経、光が成れ行の次が水道 ・部主ガス、1Pガスが設いの大きの地域 ・広域は全電が発生するため非常研究	等7446000 ( <b>%</b> 20150)	·怀王昭宗》一等统经,许王尼思为产业上次、交换点施改 (诗水塘,处理集、交外张、大井高等)。《横阳王位》是李	・返頭的発情を終れる時代できた。停止により停止して り吹きが気感を得すが続く処理法、必要核、基地局等 が発われる機能を可能	・ は彼で人きが恐事を対けた他がを除く地 ・電力需要の回復が供給能力を上回る場合、国	
	(別なり無くなると搭出与上によりサ	J/成功に各級 Dio 報信(成於Diè合)()	<ul><li>電力需要の回復が供給能力を上回る場合、国等と協議の上、需要用事が完全実施</li><li>・内質的ニス度を行うを得けた。の同じ、以無質目が加支</li></ul>	・東力需要の回復が供給能力を上回る場合、国等と協議 の上、需要切用対策を実施	・被災が大きい浄水場や処円場を探き、ほと/ 関心や下水道の利用支障の多くが発音	どの過去が発展できる大幅に関すし、
ライフラインのシナリオ		小、世子等。上小樂也·順小時年論水車、移動司生 南車、移列出於車、李龍於2005五字等) 立在18月1年八替「經过、8%狀五縮設等を優先	・		・無要力に自定品部の交換影楽店を受け 多くが解析	地域でも、見名物目により不通の
		·曼力需要の回復が供給能力を上回る場合、團等と 協議の上、需要印刷対策を支援 · 音楽》、決要目では大学が与音	ジイフジイン未完全性での知识評価等は体格化	・行法を経済による概念が大きかった地域を応さ、都合 ガス、LPガスの地震が連貫	・汗波で大きな教育が設け、地域を除き、場	がメ、LPガスの利給が再布
遊難対応シナリオ	・富力でも過激性シングを指定を使いた 地域的場合・2の場合は対応・場合を	·食料, 斗克粉膏水漏清·输芯	<ul><li>災土可要要省の営业健康所への修送を記む</li><li>・、谷土均利和に対き、経済では、</li></ul>		・在宅銀銀音への情報提供、生活維持のための	物質供給維持
	751700000000000000000000000000000000000	・ <b>連邦所等における災害時受験</b> よる駅台が記略な時 <del>年</del>	•自己接触者等/对理图	<ul> <li>・ 図本 巻葉本 保建市等による巡回 ごごろの</li> <li>・ 営票による巡覧所の管戒音板</li> <li>コミラるニーズへの記憶を依頼</li> </ul>	ンア等を実行	
	・原稿所才設 ・原名を財産等への計算計 (一河行家の加味用)	・山主砂の銀貨等による原電が水が含体率と確定。	・小で自用に占当への。できた接続	· 滋煙が生活環境1種。二一次色素1種の実施	- 海州、「戸中田学科	
救出機助・医療教護が応シ ナリオ		・災害等プローティネーターによる医療品で代等に多 搬送開始 ・ペリコアター等に	・災害医療コーティネー) :よる%/対位性	· 研究部分可以系统的特殊的人的。现代的对方性的对于人人的现象的现在分词是一个人的现在分词是一个人的对于人类的对方,可以是一个人的一个人的对方,可以是一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的一个人的		
遺体の収容・身元確認・ 安置・埋火葬の対応シナリオ	· 造: 40/26、核闭线407月8台  • 追中风空炉/水程	・ 番号、 医師(抽料室前)が重勢して物力 ・全面からの相等の類望	系统程序类的 • 近安特特拉斯 使图以及用木品等学会后当时等の • <u>近晚安</u> 少 <b>基</b> の開始 • 十四次統	<ul><li>・・生人等に係る特別計画のは以</li></ul>	・行方44対が終々で減りに、適々要素の減 不認当なのお該し	N七 ・火葬できず   禁之705回4の3巻 東発
住宅対応シナリオ	・生物が映、 用料発学 → 住力が	<b>沙</b> 龟	· 崇称了下被共和批判所给 · 克罗神姆如果治疗原实生产主义援 · 克多生生对带非洲和组	・応信弁学の概念計画を作る。 ・応急素が手での概念を課金 ・公営件名の公園を開発を一会生	- 作:四縣 計山处作或	・災害の完全を建設 - 広場の議者の生活再建支援後の接針 - 実生の含化を一のスパイク集
			·使用可能公常在"多次的快速使用 · <b>広急借上F住宅の情報使人人居服的</b> · 業別、必等に均分から、大品中義を哲	· 广泛经济中的生态用的"参加"解释 · 的或强的	受入が増におうる書用の取扱が特について用知 ・長くは無調化をの入れである	<ul> <li>点台域是名の地域場在各條件統計</li> <li>地位建設和名の人具者を含まる。</li> </ul>
広域受援シナリオ	·各市中の被当认为《中国 ·被告の必须、中国中国二大分解的	全位体Q - 核得が可能能入材の派託を	・配配管用床。但用岬内500万元。横有150万元投入。 要看 · 物学次和时期,中在被次	時。 ・多級外流線にお回の ー オンかして 地域以下を置し、内部では対人れを特別	マッチング ・家めら ・過去二級爆弾がある行政職員や大学、民 人材を問題は、市場合理をして対象制度	にる回摘が空というに開発さ 電企業等、後興力委託別に必事できる 業を実施
	•国や自称機、非被災害各体に返	《文教》: - 国 (1975)	消局)等と重携して応急がJET工学を開始	・民間物域機能の活用のための調整を開始・河外に	人が各位軍人「中国と示さいこのでは決勝 150万規格機の支援を予引しするためのは整ち	

\*\* 本文中の丸ゴシック体的分。 社会情熱の変化や技術の進化、南海トラフ巨大地震等を認定した超広域的な被災等を前提に機耐した結果、第3次地震被害認定時より制定に追加した事項 \* 本文中のゴシック体・太字・下級部分: 東日本大震災を受けて特に注目が高まっている事項 第三次第2字のも東部所

区分	地震発生	1 以後	2、3日後		1週間後	1.8	か月後	半年、1年後~	
	・、選挙・解釈・宣雄・法等の利用・特別・ ・発売・輸送・学の思報(内急級)と ※不断等的の思想を解析は各級)と 連入するルートを開発力で背景	学の対抗 、 wroganayee (ラルエ) IDin	・沖波寺はエリア	東名完集道路の新山電景。公正明末の実施 に進入するルートの確保。公益明末の実施 2種名で生、紫紅麻紅金や名色に助介	(治路·港湾の知口作等線後 後 D陰機材 ・公達期中の維持	- II	京出省路・営働可宜等の 無車両を含めた 行系4年(南交近3計解院) 壁の利名銀用開始	・ 佐共上人権で2の復用等に係る場所です の支援	
交通、緊急物資確保 対応シナリオ	・原管(書書名)和書館を・推覧 ・応告会用修練すいオーシアヤードを収 ・協力による食料・竹と2時間等の対象 ・使用では実力である。 受料では対象	・物が寄いるのの意思す ・TEC-FORCE等の支援認識	<ul> <li>(前書等での無)</li> <li>・ペリコブターを用</li> <li>・後点大業協会、土木 管理を学を開整</li> <li>・国及び物産業書</li> </ul>	急輸送出給 ルマ 数急付金通常 <工業会等と、復日工事には名人員や	• শ্লেন	(2 <b>)                                    </b>	9輪心神紀 以公司体本中業不は必須明記200 支援	- 炎性初口CAM 生生化研究	
し尿・ごみ・がれき 対応シナリオ	<ul><li>1. 以及利益次,严禁放弃并值 下水道の认為。构合各种基础、 、 、 定分/心の设置各种价。</li></ul>	受性・インの後年月18歳について、1世末十首報数44g	企业的企业的 企业的企业的 企业的企业的	アルで使く等。一ムケー、仮は4个/等を成 など、原理が処理解できたのとなが、参数等が なが、き、この処理に関して必要な影響等を分 となる、複数計画の現実を素が次更更があり	不足量が把握	がれるVオ15美及UXUTVI	也 <b>の市町や民間兼者等、広島が振に基づく</b> 赤枝を場合 気の発信。 自動車や料剤の処理自治の持ち		
		・三分女里生期日後の松子中が汗を確認。 ・分計:		74、震災廃棄極約平2条根的公支持。 2017年	る検討を実施 ・施設の被告・従業1人の変失状心が軽微	4 10 1 94			
	・施力の根炎、ライフラインの代給存在 等により企業活動に、対応発生	・J 宮崎の委員会受け他の徒党員制造会・首当門幕	問われるサービ	リンスタンド等の全国チェーンで応急性が ス類は原情評でも活動回編	を利用 ・大企業に関しては、接続停止期間も		大企業では現代報告レート、サプライチェーンの(留業、生業を制度の実現) い企業では収益機のする企業や18度が少	・大企業で増収を計算を定則を再開 ・中小企業で開収に進かまる企業や被	
経済影響シナリオ	・地震の東京大学が高度	・地域の報告・資業員の被災が開発した。今後の方針 株計	・その水セン多くの介 再開記ではすた大阪	表示。492次由四股506岁,当面55个荣 改为每0作党等を失道	を記述しないよう。 国等と協議 ・ 物連ルートや供給元が被処した場合に	t、新たな物面ル -   E	にい企業がも順鉄円金 ペリの各種組成。状態。その他複単制度	リンプレン・企業と批社は本格が制止デ ・世等による各種に関わる日長の要請	
	・施設の複雑が起かる機能・従業国のを持ち			中小企業を中心に、激集災害力の指定に基 の対長、第1事業の補助の措置を利用	ート・サプライチェーン確保のための ・中小企業を中介に井祭には経過初 経過		·利州L で気力 後興条権連	<ul><li>・漁船内場を等の日尾業者によって、 組合付付金合付金付金付金の新足が収 組入業を付着</li></ul>	
	・注射が2分と出されては直をに確実 (一事前に組織力を解析) (一	水、タイリの分子に全て最大性できない。 一句で全会は、数本は大学を存在的		P. からは 日本の 単単音 なんとかま 円線 単音 (4) 対表示 永が元が 1 ームページの 2011)		····	・ローンが残っている住宅等が収済こよる (一国や自合本が金融機関と協力して二重	二重ローンの発生が問題に ローンへの対応を検討)(一般災者揺灸)	
県民シナリオ	<ul> <li>自体をはらい は無機はその関係</li> </ul>	はは構えて、東貝の園を含むた 強重機能と比め、 (一知事等から果) はタイヤル等なお他 は、ソンジとかか起煙	各種の混乱が多生す 見の取るべき措置等 との取るべき措置等 との、取べきめ行動 買い占め、買いせが	● では、では、 ・ガンリンが不足	化含合的新色型标志。生活出的 起面完全。年度省の达点对称。130亩,4 12. <b>经由代约图字的图题</b> 14. 在公的明显的外心的对数全实施 经的	¥¥.	· 速災企業による結束が第四に、多く 〈一个変が第四十十五章/本科等記事を	次条系3分码。 以 9、未以2百分半面少据光点有条整套	
区分	地震発生 噴火警戒レベル	√1→4		噴火警戒レベル5~	喧火警戒レベル	· 5 (中長期)	増大警戒レベル	5→4以下(復興対応)	
	・地震工夫の数据 ●地震変動・操化地 と対応 ・市報伝達 主火 2数 ・決円・地質気での	《 · 作常記述 火口通过(入) 毛材 避嫌得確等 · 淡声均对接集者の避難、福利	的) 地类的相談的描	●哈大念中 ・建筑以使用的6000000000000000000000000000000000000	●何少記樂/2年排記 ・聖佛/第3元		● 住火汗車の浴台小 ・透視の単純 ・一台組建体者の原字		
連続災害としての富士山火山災害対応シナリオ	<ul><li>道路被告等による</li><li>【火山政告による相</li></ul>	よる各種意見達の室1 · 炎吉特度会等者の経緯 整理実施の海れ 等 · 佐祖県原明時代 华	ンベンレ4) W 气流	と終めきことで制度 ・連絡性による整性の数けれた数 (火山がきことない形) ・強のこよる制制 ・強のこよる側が特別があれて対象が 生活物が不足 等	の原の音が見り。 第545年第50日火】: (7年5月25日2007~	シベクラ、ライフライ) 動図れ 等	火山災害の復日港 【火山災害による制	シクラ、ライフラインの別氏学がによる 遅れ、等	
区分	地震発生~警 成体制 德心族 (平海德·克里			放射性物質放出 放			出停止後~中長期対策		
複合災害としての原子力	●発達所人の誤器が、●重人を制なってが 選 実完を任等 ・PAZ (some) ・比震による数書 ② タイロマック	住民/安徽LUP2 (tike)對 住民/原序的聯 (原則	j UPZ (21km	●競争」いの放射性物質の規則 - 放射性質での対象がにより、溶離」 飲食物物別制度、用値制度の実施 ・緊急時でニクリング、スクツ・ニンク		<ol> <li>時核</li> <li>予約5</li> </ol>	〜の原体水や桁の洗着。中長期的影響 しの構造 別の来産 もの対応 等		
災害対応シナリオ	・住民を制等が生産 DM 無数当による ・信事が組ま金額 「原子人の声によ	こよる各種等の伝達の遅れ、遺跡を持てよる一致失業		出雲炎害による非約1 ・ 注物を属こよる範囲音の受け入れ先約 原子が、第二による制約 ・ 放射性物質による動物が成分解水水や		• 地震液 1原子力	書こよ名制的 書にあったインクラ、ライフラインの須目 災害こよる胡綱 れたガレキが理、汚染不振の傷日・復興が	Section 1999	